

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	チャイルドウィッシュいわの		
○保護者評価実施期間	R6年 12月 10日		～ R7年 1月 10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○従業者評価実施期間	R6年 12月 10日		～ R6年 12月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	R7年 1月 17日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	スタッフ間のコミュニケーションが取れているため、雰囲気良く、子どもたちにも良い影響が出ています。	イベントや行事などスタッフみんなで話し合っていて決めています。	スタッフ一人一人が自分の役割を認識して自主的に行っています。
2	問題行動が起きた際、どのスタッフもできるだけ同じ認識で対応できるようにしています。	保護者の意向も踏まえながらスタッフみんなで対応を話し合っています。	スタッフ一人一人の力をつけていき、問題行動が起きる前に対処できるようにしていきます。
3	いろんな経験を積んでいけるように体を使った遊びのほかにもクッキング、お出かけ、製作なども定期的におこなっています。	家ではなかなか体験できない遊びをおこなったり、事業所で育てた野菜などを自分たちで調理して食べたり、外出したり、月ごとの壁面を作ったりしています。	今後は子どもたちの年齢も上がってくるため、より社会に出ていく機会を作っていけたらよいと思っています。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域住民や学童などとの交流がなかなかできていません。	個人情報の問題をはじめ、普段からつながりがないことです。	つながりを作るための日ごろのアプローチや周囲を巻き込んだイベントの開催が必要ですがなかなか難しいのが現状です。
2	兄弟向けのイベントの開催は出来ていません。	個人情報の問題やきょうだい同士の交流が今の時点で望まれているのかが分かりません。	きょうだいを交えて行イベント等の企画をしていくことです。
3	保護者同士の興隆の場を与える機会が設けられていない現状です。(おこなったことはあります。)	今まで人材不足でイベントを企画する余裕がありませんでした。	べあれんとサークルを年2回を目途に復活させていきます。